

開かれた 大学

公開講座が果たしてきた役割

芸大の教育活動のひとつに、一般市民を対象とした公開講座がある。平成十三年度公開講座から四つの講座について担当教官が紹介する。

夏期公開講座とは

東京芸術大学は、教官・学生の作品の公開展示、公開演奏会、大学美術館収蔵品の公開、科目等履修生の受け入れ、年末の「メサイア」、「台東第九」公演など、さまざまな形で社会と連携した活動を行っています。そのなかでも「大学が持っている総合的・専門的教育研究の機能を広く社会に開放し、地域住民等に対して広く生活上、職業上の知識、技術及び一般教養を身に付ける機会を提供すること」を目的として、地域における生涯

学習の場を提供する「公開講座」が代表的なものです。本学の公開講座は、一九八三年（昭和五十八年）に開始されましたが、実技指導を中心として一講座あたりの受講生を少なくし、きめ細かな指導を行うことに特徴があり、概ね連続三日間ないし七日間にわたり開講して、短期間に学習の成果が上がるように企画されています。また、講座は、アトリエ、演奏ホールを使って実施するため、本学の授業に支障のないよう、主に夏休み期間に行っています。今年度は二十講座、定員八百八十六名に拡充され行われました。来年度の受講要項は、五月下旬に配布されます。

浮遊する 造形（モビール）

伊藤隆道教官

モビールは、風の流れに応じて軽快に動く、ユニークな造形表現です。

スタティックなオブジェ作品とは違って、「風を見せる」「動きを楽しませる」というオリジナルの魅力があります。それは、立体彫刻にバレエやダンスのような「時間」の要素を取り入れた表現だと喻えることもできるでしょう。

七日間の講座では、まずモビールの代表的な作家アレキサンダー・カルダーと私の作品を紹介しながら、モビールの歴史、具体的な仕組みなどを概説します。

このあと受講者が最初に手がけるのは、モビールの原型「やじろべえ」の作り方です。ここで「動く造形」の基礎であり、最も重要なバランスについて理解していただきます。さらに、主要な素材である針金の特性、ジョイントの工夫などから、「軽さ」「重力に対する否定」といったモビール作成のポイントがおさえられています。

住民のための 建築学校

片山和俊教官

芸大上野キャンパスに隣接する谷中・根津・千駄木地区（略して谷根千）は、歴史のある町並みと下町的な暮らしを残す、東京の代表的な散策エリアのひとつです。

このエリアには、古くからの民家、学校、商店街が軒を接し、墓地を擁する寺町が控え、人間にとつての「生老病死」がそろっています。地勢的にも起伏に富み、町を歩いて学ぶにはうってつけの場所だといえるでしょう。もちろん、芸大の藤元だという利点もあります。私の環境設計研究室では、入ってきた大学院生には、まず谷根千を対象に計画を立てさせているんです。

この講座の大きな狙いは、町をフィールドワークすることによって、ふだんは距離のある手がかかりを習得していただければということにあります。受講者は、数人ずつのグループに分かれて、サポーター（研究室の助手や大学院

指揮法講座

佐藤功太郎教官

「いちどはオーケストラを指揮してみたい」。そんな夢をもつ音楽ファンは少なくないでしょう。

芸大の「指揮法講座」では、三日間という短い時間のなかで、指揮をするさいに必要な基本的な技術や姿勢について学ぶことができます。そこでこの講座では、まず指揮特有の「生理的な部分」と「物理的な部分」について知っていただくことから始めています。

生理的な部分とは、指揮される側の目の生理、目の癖のことです。「動いている両方の手を、同時には追うことはできない」「二つの動きの中で、より大きく動いているほうを見る」……。これらを踏まえておくと、演奏者にとつて見やすく棒を振ることができるようになります。

指揮の物理的な側面は、日常的な小道具を使って説明しました。釘を打つ要領で小型の金槌を振ることにより、指揮棒は、先端の動きで指

オルガンを 知ろう

廣野嗣雄教官

荘厳華麗な音色の美しさで、幅広いファンを獲得しているオルガンの響き。

公開講座「オルガンを知ろう」では、オルガンの原理、音色、演奏と歴史について、芸大にある三台の種類が異なるオルガンを使って授業を進めました。理論はもちろん重視しましたが、「見る」「聞く」「触れる」という感覚的な要素を入りに、オルガン音楽がより身近になるよう工夫したつもりです。

演奏堂での講義では、スライドとビデオカメラにより、プロジェクトで映像を大スクリーンに投影して進めました。オルガンの内部にカメラを入れて構造を説明し、手足を使った鍵操作を見ていただくなど、ふだんは見ることができない演奏の細部が、明らかに思ったと思います。

何よりも豊かな響きを聴いていただくことが、オルガンの魅力を知る最大の近道です。代表的な音色を紹介したのち、「オルガン音楽めぐり」



「光や影や曲線について今まで見逃していたことばかりで刺激的でした」
「道具が少なくペンチとハリガネだけでできることが良かったです。」(「公開講座アンケート」より。以下同)

この講座では、風力で動くモビールだけではなく、「動く造形」の枠のなかで、モーターで動く彫刻も手ほどきしました。モビールのランダムな動きや、電動による繰り返し返しの動きなど、それぞれに個性の違いや、おもしろさがあります。

講座最終の自由制作には、それまでに学んだ「動く造形」の中から、受講者がいちばん作りたいたいのを、好きな材料を自分で選んで作るという課題を与えました。材料を選ぶというというの表現行為のひとつなのです。なかには、子どもと海で遊んだとき拾ってきた貝殻を用いた女性受講者もいました。

何よりも作品をたくさん作ることで、素材を使いこなして、生き生きとした表現力ができるようにになります。じつを言うと、針金自体が、初心者が取り組んでも、味わいのある表情を持ち得、完成度が出てくる素材なのです。この点も、一般の方向けの公開講座にはふさわしいのかもしれない。作品を家庭に持ち帰り、テクニックをみんなと共有することができると、この講座ならではのこだわりがあります。

(いとう・たかみち／美術学部デザイン科教授)



「開く一閉じる」から何を連想し、何を探そうか、とても楽しみました。次から次へいろいろなことが連想され、まとめられない程とても良いテーマだと思いました。」

生)のガイドにしたがい行動します。このように、講義形式ではなく、受講者自身が街を見て回り、考え、話し合い、発表する「参加型」であることも大きな特色です。

今回、皆さんにやっていただいたテーマは「開く一閉じる」です。街や家がどのように「開かれ一閉じられ」ているか、谷根千を巡りながら、その関係を発見してもらうのが課題です。また、ほかにどのようなテーマや見方を加えると、街の構造の理解が助けられるか。カメラや地図を駆使して、数時間歩き、最終日にはプレゼンテーション・パネルをグループごとにまとめ、発表してもらいます。

この講座は院生や助手も、一般の方と接することにより、頭を柔軟にして、グループワークを補助する必要が生じ、勉強になります。受講後に、自分が住んでいる町をはじめ、景観や町並み保存についての意識が高まっていたとありがたいです。

創作にかかわる具体的なテクニックが学べるわけではありませんが、「町と建築の見方を変える」視点を学ぶ「住民のための建築学校」は、芸大公開講座の中でも個性的なものだといえるでしょう。

(かたやま・かずとし／美術学部建築科教授)

示するのだと学んでいただく。うちを振って空気抵抗を味わうことで、滑らかなレガートの振り方が体感できます。ビート(拍)の基本である振り子の原理を観察するには、糸で吊るした五十円硬貨を使いました。

指揮者の心構えとして最も重要なのは決断力と実行力です。

拍子をとるなかで一斉に手を叩かせる「手叩きゲーム」や、指揮台の上から大きな身振りと手振り、自分が思っていることを明確に伝える「ジェスチャーゲーム」など、ゲーム形式で楽しみながら理解していただけるよう工夫しました。

基礎を学んだあとは、実践へ。合唱曲を指揮するだけではなく、合唱する側にも入って、コミュニケーションの難しさを実感することはたいへん重要です。また、芸大生による弦楽合奏で、モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」を指揮する機会も与えられます。

ただ指揮者にとって何よりも必要なことは、音楽を自分のなかに充満させておくことです。基礎を踏まえ、内発的な表現意欲があれば、指揮をはじめめるのに年齢は問いませんから。

(さとう・こうたろう／音楽学部指揮科教授)



「希望次第でどんどん振らせてもらえるところが魅力。」「毎日練習して、また次回参加しようと思います。上達するかなあー？」

と題して、一日目には、十四世紀の作曲家不詳の作品からバロックの巨匠J・S・バッハまでを、二日目には、ロマン派のメンデルスゾーンから現代のメシアンまでを、解説をばさみながら、院生の演奏で聴いていただきました。

また、受講者にとっていちばんの楽しみは、じつさに自分の手でオルガンに触れ、音を出してホールに響きわたらせることができることでしょう。とくに奏楽堂のオルガンに触れられるのは貴重な経験だと思います。

講座の意義としてもうひとつ強調しておきたいのは、演奏のプロをめざす学生・院生が、アーティストとしてだけでなく、社会に目を向け、企画する側の役割を意識するということです。オルガン専攻大学院の授業の一環として、教官と院生が自由に意見を交えながら、準備に数ヶ月かけ、一般の方を飽きさせず、しかも手際よく講義を進めることに配慮しました。同時に、東京芸大における教育の現場に接していただくことも重要だと考えました。

この講座をおとして、二千年以上の歴史をもつオルガンへの関心が高まり、芸術大学奏楽堂のみならず、各地のコンサートホールに足を運んでいただけるようになることが何よりです。

(ひろの・つぐお／音楽学部器楽科教授)



「奏楽堂のオルガンがあまりにも立派だったので仰天しました。パイプオルガンは、奥が深くて、いろいろな背景のもとに、成り立っていることを痛感しました。」

平成13年度公開講座

上野キャンパス

【陶芸（陶土で楽しむ）】

5月19日、26日、6月2日。3日間、計18時間
陶土を使い手びねり、紐作り等の技法で器を成形し、素焼きした後、下絵の具（呉須・弁柄）による絵付けと釉掛けを行い、湯呑、花器などの器物を制作する。

講師：島田文雄 他

【浮遊する造形（モビール）】

7月23日～7月31日。7日間、計42時間
モビールの基本となるシステムや手法を学び、参加者それぞれの発想やデザインによるオリジナル作品を作る。

講師：伊藤隆道 他3名

【今日の美術入門】

7月24日～7月31日。7日間、計42時間
ごく身近な「物」を素材として、立体作品を制作し、さらにフォトグラムという写真技法を利用して平面作品を制作する。

講師：坂口寛敏 他7名

【油画】

7月24日～7月31日。7日間、計42時間
室内空間に置かれた人体と静物を組み合わせ、一枚の油彩画を完成させる。

講師：絹谷幸二 他6名

【木版画】

7月24日～7月31日。7日間、計42時間
水性多色摺り浮世絵伝統木版技術の習得と制作及び版画の基本の解説を中心とした講義を行う。

講師：野田哲也 他3名

【リトグラフ】

7月24日～7月31日。7日間、計42時間
リトグラフの初歩的技術を修得させる。制作実習を中心とし、そのつど、リトグラフについての概説、歴史の説明、参考作品鑑賞等を行う。



左：【油画】 右：【リトグラフ】

講師：木戸 均 他2名

【イラストレーション技法とカレンダー】

7月23日～7月31日。7日間、計42時間
いろいろなイラスト技法により、カレンダーのためのイラストレーションを描き、完成させる。

講師：箕浦昇一 他4名

【みんなで作る工作】

7月26日～8月1日。6日間、計24時間
大人と子供が木を中心とした素材で共同制作をし、作品を完成させる。制作実習を通していろいろな道具の使い方も体得する。

講師：本郷 寛 他4名

【住民のための建築学校】

7月27日～7月29日。3日間、計18時間
東京の下町谷中・根津地域でのフィールドワークを中心に建築や町並み、人々の生活に触れながら身近な都市景観への提案を試みる。

講師：片山和俊 他3名

【お箏を楽しくーⅡ】

7月20日～7月22日。3日間、計18時間
中学生以上の一般の方に箏の音楽を理解していただき、実習しながら、これらの表現を会得する。

講師：増淵任一郎 他6名

【オルガンを知ろう】

7月21日～7月22日。2日間、計10時間
2000年以上の歴史を持つオルガン。その仕組み、音色、楽器や音楽の歴史などを、わかりやすく解説し、楽器にも触れてみる。

講師：廣野嗣雄 他

【指揮法講座】

7月23日～7月25日。3日間、計18時間
姿勢、指揮棒の持ち方等の基礎的要素から、主として実技を中心に講義を進め、様々な演奏形態の楽曲の指揮入門まで、講義を行う。

講師：佐藤功太郎 他1名

【初歩の尺八実技】

7月25日、7月30日、8月17日。3日間、計18時間
尺八の歴史、琴古流・都山流の流派の違いを説明し、尺八実技指導を行う。

講師：山本泰正 他2名

【春の海を弾こう】

7月26日～7月28日。3日間、計21時間
「さくら」「春の海」を弾きます。



左：【チントンシャンってどう弾くの?】

右：【時代はUP感覚！ PARTⅢ】

講師：安藤政輝 他2名

【時代はUP感覚！ PARTⅢ】

8月1日～8月3日。3日間、計18時間
日常の無意識な動作、所作にかくされたリズム感の本質に気づき、自然な動きのエネルギーの方向を感じる。

講師：有賀誠門

【お能ってなあに?】

8月21日～8月23日。3日間、計18時間
能装束の紹介、着装、能面、宝生流・観世流による表現様式の比較による流儀の違いについての講義や、囃子事の実演と体験を行う。

講師：野村四郎 他4名

【チントンシャンってどう弾くの?】

8月27日～8月29日。3日間、計18時間
三味線音楽についての歴史編・楽器編の講義及び三味線実習を行う。

講師：藤原睦子 他2名

取手キャンパス

【木工芸：フォトフレーム(木製額縁)の制作】

6月9日～7月7日。9日間。
フォトフレーム(木製額縁)の制作を行う。

講師：田中一幸 他4名

【新しい美術の楽しみ方】

9月17日～9月25日。7日間、計42時間
ドローイング他、カメラやビデオなどで記録したり、個人個人で表現の可能性を探り、新しい美術の楽しみ方の演習を行う。

講師：保科豊巳 他6名

【有線七宝と彫金】

9月17日～9月26日。7日間、計42時間
七宝・彫金技法による額絵、器物等の制作。初心者には小額絵(ハガキサイズ)を制作する。

受講方法等について

公開講座は、概ね次のスケジュールにより、行っています。

5月下旬	公開講座実施要項の配布と大学ホームページへの掲載
6月中旬	受講者募集(募集期間は10日間)
6月下旬	郵便による受講決定者への通知
6月下旬～9月	公開講座の開講

●受講対象者

- ・受講対象者は、受講する講座の全期間を受講できる方に限ります。(例：3日間の講座を1日だけ受講することはできません)
- ・受講を申し込まれる方の「学歴」「経歴の有無」「性別」は問いません。ただし、講座により、受講対象となる年齢が設けられる場合があります。

●受講定員

- ・受講定員は、各講座ごとに定められています。定員

を超えた講座については、抽選となります。

- ・なお、受講の申し込みが定員に満たない講座については、申し込み期間終了後も、講座開始の10日前まで申し込みを受け付けますので、大学に電話で照会していただくか、大学ホームページでご確認ください。

東京芸術大学ホームページ <http://www.geidai.ac.jp>

●実施場所

- ・上野キャンパス
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
- ・取手キャンパス
〒302-0001 茨城県取手市小文間5000番地
東京芸術大学取手校地

●お問い合わせ先

総務課企画調査係
電話：03-5685-7508 FAX：03-5685-7760

●申し込み方法

- ・公開講座の申し込みは、5月下旬に発行する「公開講座実施要項」巻末の申し込み用紙に必要事項を

記入の上、返信用封筒を同封し、大学宛に郵送願います。

- ・「実施要項」は、直接、大学(上野キャンパスまたは取手キャンパス)で入手されるか、電話でご請求ください。また、大学ホームページにも掲載しますので、印刷してお使いください。
- ・講習料及び教材費は、受講決定通知により納入方法、納入期日についてご案内いたします。なお、抽選を行った場合、抽選に漏れた方には、その旨、通知いたします。
- ・お一人で、1講座に何通も申し込まれた場合、申し込みは無効となります。
- ・お一人で日程の重なる講座に、複数申し込まれた場合、申し込みは無効となります。
- ・お申し込み者以外の方の受講はできません。
- ・その他、申し込み方法、講習料等について、詳しくは、上記「お問い合わせ先」まで、ご連絡ください。